

2006 年度日本移民学会ワークショップ

タイトル： 日本における移民研究動向展望—1994 年から今日まで—

日時：2006 年 8 月 5 日（土）、6 日（日）

場所：津田塾大学

目的:

『日本の移民研究』（日外アソシエーツ：1994 年）が刊行された 1994 年以降、日本における移民研究は質・量ともに飛躍し、その裾野の広がりには目を見張るものがある。そのことは、新たに出現している膨大な研究とその研究視座の検討（再検討）が必要であることを示している。

本企画は、1994 年以降の移民研究文献の分類・整理作業をふまえ、研究テーマごとに「研究動向と展望」を公表し、議論を深めることを目的とする。このような「研究史研究」の作業は、歴史・文学・人類学・社会学・地理学等、多分野にまたがる「移民」を巡る研究における諸概念、研究視座の建設的な「翻訳」、相互交流に繋がるであろう。具体的には、「出・入移民」、「同化」などの伝統的な研究視座に加えて、「トランスナショナルリズム」、「グローバル・マイグレーション」といった研究視座の可能性と課題を検証しつつ、移民研究の新たな地平を模索することとしたい。また、2 日目には、移民研究の教育方法とその内容についてのセッションを設け、3 つの異なる研究視座から「移民」、「移住」といったテーマをどのように授業で取り上げているのか、知識を共有する場としたい。

対象:学会員、及び一般の方（学生を含む）対象,事前の申し込みは不要

プログラム（敬称略）

8 月 5 日（土）

12:00 日本移民学会共同研究推進委員長挨拶 篠田 左多江

12:10-14:10 【第 1 セッション：ネーション・トランスナショナル】 各 20 分発表
菅、増田、長谷川、小澤

14:20-16:20 【第 2 セッション：移民と社会の諸相】 各 20 分発表
高橋、丸山、拝野、深見

16:30-18:00 【総括セッション：これからの移民研究】
木村健二、飯野正子

8 月 6 日（日）

10:00-13:00 【移民研究の教育の現場から】
桑井輝子、森本豊富、南川文里

<新刊紹介>

山本義彦著『清沢洌 ―その多元主義と平和思想の形成』学術出版会、2006年・・・坂口満広
林かおり著『私は戦争花嫁ですーアメリカとオーストラリアで生きる日系国際結婚親睦会
の女たち』北國新聞社、2006年・・・土屋智子